

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

- 11月10日（土） 仏教と文学
樋口達郎 先生 筑波大学特任研究員
11月24日（土） 出家・在家・作務・労働をめぐって
宮元啓一 先生 國學院大學名誉教授
12月 8日（土） 平家物語と仏教
伊藤 益 先生 筑波大学教授
1月12日（土） 「非俗」の実践
阿満利磨 先生 明治学院大学名誉教授
1月26日（土） 労働の場と個の確立
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長
2月 9日（土） 宗教と労働
柴田文啓 先生 開眼寺住職
2月23日（土） 生きること、はたらくことー菩薩行として
末木文美士 先生 東京大学名誉教授
3月 9日（土） 通俗道徳と浮世の思想
島蘭 進 先生 上智大学教授
3月23日（土） 迷いからの脱出ー初めに
菅原伸郎 在家仏教協会理事長

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

- 11月16日（金） 超高齢化時代の四苦に向き合う仏教
奈倉道隆 先生 東海学園大学名誉教授
3月15日（金） 釈尊から親鸞聖人へ
丘山 新 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長

いのち尊し

「縁」

第19号
いのち尊し
平成30年11月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3
五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

阿部 俊一

（産業カウンセラー）

横浜朝日カルチャーの中野東禅
師の講義を受け始めて五年にな
ります。二年前に東禅禅師から
在家仏教協会を紹介され、高名な
先生方の講義を傾聴してまいりま
した。そんななか、今年七月に北
鎌倉・東慶寺で行われた「大拙忌
法要」において、在家仏教協会の
菅原伸郎理事長に鈴木大拙のお墓
の前でばったりお会いして名刺を
交換させていただきました。本当
に不思議な巡り合わせを感じ入っ
ております。

\*

五十五年前、横浜の高校に通い
「夏目漱石」を愛読する私は、大
学受験のさなかの毎週土曜日、北
鎌倉、鎌倉を散策しながら寺巡り
をしておりました。高校二年の初
冬、北鎌倉円覚寺の塔頭・帰源院
で漱石を偲ぶ会が漱石の命日に行

\*

われていることを知り参禅しまし
た。そこに漱石と親交があり漱石
に油絵を教えた津田青風画伯と出
会うことができました。帰源院の
座敷で穏やかな語り口で漱石の思
い出話をしてくださいました。い
ま、その津田画伯のお墓は大拙の
お墓の近くにあります。
漱石は円覚寺で坐禅をされてお
ります。その時の体験を小説『門』
に、「一窓庵は山門に入るや否や、
すぐ右手の方の高い石段の上にあっ
た」と書かれております。この一
窓庵が「帰源院」を指しておりま
す。漱石は禅を行じ禅の語録を読
んで禅を研究し、あこがれており
ました。
そして釈宗演老師にお会いし公
案を出されます。そして一週間ほ
ど帰源院で座禅を組んで考えたこ
とを宗演老師に答えを申し上げま

す。すると宗演老師はそばにあつ
た鈴を振って、「そのようなこと
は少し大学を出て勉強をすれば言
える、もう少し本当のところを見
つけていらつしやい、チリンチリ
ン」というふうにあしらわれてし
まわれました。その時の心のあり
ようを、自分は門に入る資格はな
く、門外に佇んで門を仰ぐに過ぎ
なかつた。喪家の犬の如く円覚寺
を去った、と漱石は小説『門』に
書いております。

私はそんな高校生活を送ってお
りましたが、父母等に守られて生
きていた世界から自分自身で生き
るころの準備を始めました。恋
もして、そして悩み多き青春を

「何か心的な絶対的なもの」を求
めて読書量はさらに増え、質の高
い友人もでき、そして受験の真つ
最中、朝日新聞に連載されていた
亀井勝一郎の「歴史の星々」に質
問状を送り、その返事が帰って来
たのが「亡国のしらべ」というのは
作家だけでなく、いまの日本には
びこっているすべての頹廢、とく

にアメリカ文化の深い猿真似は困
るということです。大いに頑張つ
て下さい」。まさに今の国政に対
する諫言に思え、驚嘆しておりま
す。そしてその年に『人間教育』
『日本人の精神史研究』などを残
された昭和の文芸評論家が旅立っ
ております。そのはがきは今でも
私の宝物です。

\*

夏目漱石の本は小学、中学、高
校と繰り返し読み、理解の深さも
変わっていきました。そして青春
の悩み、将来の不安等の中から、
「心的に絶対的なものがほしい」
と思うようになっていき、宗教書
に関わる本としてキリスト教を敬
う作家・遠藤周作、曾野綾子、内
村鑑三等の本を読み、大学の専攻
を選ぶのに、内村鑑三の「後世へ
の最大遺物」に影響され木工学
に進みました。

このように学生期は「仏縁」に
出合うことができました。また七
十一歳になるまでさまさまな「仏
縁」により生きてまいりました。
家住期、林住期の話は縁がありま
したら続けさせていただきます。



読者からの手紙

田中先生のお話を伺って

木村英憲 (愛知学院大学教授、愛知県長久手市在住)

十月十三日に東京会場で行われたケネス田中先生の講演「はたらく力となる宗教——宗教社会学者ペラーと近江商人の真宗を中心に」を伺うことができました。テーマは仏教、とりわけ浄土真宗は職業、とくに商売をどうみるかでした。お話を聞いて、長年抱いてきた違和感の正体が見えてきました。

資本主義の成立を促したのはプロテスタントのカルビンの教え——とするマックス・ウェーバーの説について、私はこれまで疑問を感じていました。カルビンの教えでは、人が救われるかどうかはあらかじめ決まっている、けれど救われるかどうかわからない、その不安から仕事に没頭したことが資本主義の成立に貢献した、とウェーバーは言うわけです。他方、蓮如は商売を「生かされていることへの報恩感謝の行」と

位置づけれます。不安から追い詰められて働くカルビンの徒とはずいぶん違います。欧米で手早く済ますビジネス・ランチが広がったことも、仕事以外に時間を費やすことへの後ろめたさを感じるカルビンの教えが遠因かもしれません。

さらに田中先生は「商売は、取り引き相手、ひいては社会を潤すことが目的」という真宗の視点を示されました。とすれば、これは利他行です。「菩提心を源泉とした菩薩行」とのご指摘は目から鱗でした。こう考えると、日本では社長の給料は社員の数十倍どまりですが、欧米の社長は数百倍というのも、うなずける話になります。

こうした違いは、カルビンの教えでは「自分が救われる」ことばかりに目が行っていることが遠因のように思われます。自分の救済だけのために働くとするれば、会社の中の親しげな人間関係も表面的なもので、内心は孤独ということが想像されます。事実、「自分のことをわかってくれる友人がいるか」とのアンケートで肯定的に答えるアメリカ人は二〇%どまり、というデータがあるぐらいです。

2015年以降の講演録についても掲載の予定です。在庫切れの際はご容赦下さい。

在家仏教通信

月刊誌「在家佛教」の在庫をお譲りいたします

「在家佛教」2012年1月号から2017年5月号までのバックナンバーをご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

年間の講演録を9月号より掲載しておりますのでご確認ください。今月は2014年を掲載しました。

この一冊

吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』(岩波文庫)

中村俊也 (在家仏教協会会員)

昨年、マンガ版の刊行で話題を呼んだ著作です。原作は一九三七年なので八十年以上の歴史に耐えてきたことになりました。小生、恥ずかしながらこの歳になって初めてページを繰ってみました。

本書は題名どおり「人生どう生きるべきか」を青少年に説く「道徳・倫理・啓発」の書として世に出されたものでしょうが、「因果の法則」を説く仏教的な思想が通底しているように思われます。コペル君が銀座のデパート屋上から眺めた数多の人の動きや、自らが世話になった粉ミルクの缶をみて「人間分子の関係、網目の法則」を発見することになります。叔父さんがこれを「生産関係」と言い換えるところには時代背景を感じますが、コペル君は中学二年生にして「生かされている」境地に気づくのです。

ご支援のお願い

公益社団法人在家仏教協会の活動は会員の皆様からの会費、寄付によって成り立っております。公益法人への寄付は以下のような優遇税制が認められておりますので、是非ご支援をお願い申し上げます。

★所得税 所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)12,000円」を控除することができます。

★法人税 法人税について、法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

★相続税 相続税について、個人が相続財産を公益法人に贈与した場合、非課税となります。 「租税特別措置法第70条」

叔父さんは貧困を説くなかで「ありがたい」という言葉について、「そうあることがむずかしい」との原義に触れ、すべての人がそれぞれ役割を果たし何がしかを日々生み出していることの大切さを話します。また、パスカルの言葉を用いて「王位を奪われた国王以外に、誰が、国王でないことを不幸に感じる者があるう。…誰にせよ、眼が三つないから悲しいと思っただけではないだろうが、眼が一つしかなければ、慰めようのない思いをするものである」と、人間の悲しみや苦しみの根源について真理を説いています。長い歴史のなかで、真価のあるものは必然として伝播すること、異質の文化と触れ合い混ざり合うことで進化が生まれることを説くのにガンダーラの仏像を取り上げて締めくくるところにも仏教的なものを感ぜずにはいられません。

八十年を経た今ブームを起こした背景に何があるのか、私たちの周りで何が起きているのか。悠久の歴史を紡ぐ一つの分子として、また現在の社会を織りなす網目の一つとして、今、自分が何をなすべきか、改めて考えさせられる一冊です。

原稿をお待ちしています

◇随想「仏教と私」「読者からの手紙」(八百字以内) 人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動・講演会の感想などをお書きください。 ◇コラム「この一冊」(八百字以内)

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出しの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は、〒101-0006 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会 「いのち尊し」係。メールはkami.mura@zaikubukkyo.com.jp。

Table with 3 columns: Issue No., Author, Title. Includes entries for 2014年1月号 to 2014年12月号.